

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	
施 設 名	北九州芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	創造都市＝クリエイティブ・シティ実現に向けた 『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	34,471	(千円)

(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2019」	5月10日～6月23日	指揮・合唱指導：樋本英一 ソプラノ・合唱指導：伊藤晴 ピアノ：白石光隆 作曲：長生淳 台本演出アクション：能祖将夫	目標値	350・80
		中劇場ほか		実績値	390・88
2	森山開次「NINJA」	7月13日	演出・振付・アートディレクション： 森山開次	目標値	396
		中劇場		実績値	315
3	めにみえない みみにしたい	7月20日～7月21日	作・演出：藤田貴大	目標値	270
		小劇場		実績値	231
4	大人も一緒に子どもたちの 劇場シリーズ —海外編—	7月20日～21日	出演：ダンマ・ダンス・シアター	目標値	216
		創造工房		実績値	199
5	松尾スズキプロデュース 東京成人演劇部 vol.1 「命、ギガ長ス」	7月31日～8月1日	作・演出：松尾スズキ 出演：安藤玉恵、松尾スズキ	目標値	351
		小劇場		実績値	405
6	ダンスダイブウィーク	9月15日～9月22日	アーティスト：森山開次／北村成美 出演：イマ☆タカ&イマ☆タカ ダンスファミリー、赤シャツダンサーズ	目標値	40・600
		北九州芸術劇場 ほか北九州市内各所		実績値	122・370
7	ギミックス	4月～9月	振付・演出： 井手茂太（イデビアン・クルー）	目標値	656・60
		小劇場ほか		実績値	447・63
8	Re：北九州の記憶	4月～令和2年2月	構成・演出： 内藤裕敬（南河内万歳一座） ※新型コロナウイルス感染防止のため関連企画を一部縮小して実施	目標値	210
		小劇場ほか		実績値	289
9	北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ 「まつわる紐、ほどけば風」	8月～令和2年3月	作・演出： 岩崎正裕（劇団太陽族） ※新型コロナウイルス感染防止のため一部中止	目標値	768
		小劇場ほか		実績値	92・101 71

10	山海塾「ひびき（リクレーション）」	令和2年2月23日	演出・振付・デザイン：天児牛大 舞踏手：竹内晶、市原昭仁、松岡大、石井則仁、百木俊介、岩本大紀、高瀬誠	目標値	393
		中劇場		実績値	375
11	夏休み！子どもの劇場体験2019	8月14日～8月18日	コーディネーター：守田慎之介 リーダー：穴迫信一、高野桂子 ※台風の影響に伴い一部中止	目標値	30
		小劇場、創造工房ほか		実績値	30
12	劇場塾2019	11月30日～12月18日	講師：有門正太郎、岩崎正裕、藤岡保／神前沙織、セレノグラフィカ、マニシア／岩切正一郎／尾本章、長津結一郎	目標値	144
		大ホール、創造工房		実績値	114
13	大学演劇ラボ	9月～令和2年3月	講師：永山智行、池田美樹、福田修志、北九州芸術劇場ローカルディレクター、テクニカルスタッフ ※新型コロナウイルス感染防止のため内容を縮小して実施	目標値	80・20
		創造工房、ほか市内施設		実績値	-・22
14	東筑紫学園高等学校演劇類型連携事業	12月17日	講師：泊篤志（北九州芸術劇場ローカルディレクター・飛ぶ劇場代表）、北九州芸術劇場スタッフ	目標値	20
		東筑紫学園高等学校		実績値	14
15	市民劇場文化サポーター育成事業	4月～令和2年3月	市民芸術文化サポーター	目標値	28
		北九州芸術劇場内		実績値	26
16	高校生〔的〕シアター	4月～令和2年3月	講師：山崎清介／白神ももこ ※台風の影響に伴い一部中止	目標値	30
		創造工房ほか		実績値	201・33
17	キタQアーティストふれあいプログラム	11月～令和2年2月	講師：有門正太郎／守田慎之介／北尾亘／セレノグラフィカ	目標値	1,000
		市内小・中・特別支援校		実績値	515
18	ひとまち+アーツ協働事業	9月～令和2年2月	アーティスト：セレノグラフィカ／有門正太郎、守田慎之介	目標値	126 30・400
		小劇場ほか		実績値	822
19	地域のアートレパトリー創造事業	4月～令和2年3月	「ギラダンス」 振付：近藤良平 音楽：吉田トオル ※新型コロナウイルス感染防止のため内容を縮小して実施	目標値	3,000
		市内各所		実績値	296
20	北九州芸術工業地帯	4月～令和2年3月	作・演出：柴幸雄 ※新型コロナウイルス感染防止のため中止	目標値	252・360
		北九州モノレールほか市内各所		実績値	-

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当劇場は、北九州市のまちづくりにおける基本構想・計画及び分野別計画である文化振興計画で示された方向性を踏まえ、劇場運営の基本方針に基づく4つのコンセプト「創る・育つ・観る・支える」において演劇やダンスを中心とした事業運営を行っており、中長期ビジョンにおける目標として『文化・芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生』を掲げ、「舞台芸術活動の地域への浸透」と「舞台芸術を活かした都市づくり」の達成を目指している。〈舞台芸術の創作クオリティ向上の取組み〉〈舞台芸術及び拠点施設を活かす取組み〉という大きな枠組みの中で「クリエイションの多様化」「市場の開拓」「多様な主体との協働」「情報・スキルの担保」の4つの視点を持ち、幅広いラインアップの鑑賞事業、地域の表現者との作品制作、教育や福祉現場等でのアウトリーチなどを実施している。劇場全体の事業展開としては計画に沿って実施しており、今後もこの通り進めていく。

- ・令和元年度においても、計画通り20事業に取り組んだ。(ただし、2月末以降は新型コロナウイルス感染防止対策のため、公演中止や一部企画変更等を行った。)
- ・舞台芸術の多様性を提示できるよう演劇やダンスの分野において様々な要素を含んだラインアップを実現し、乳幼児向けの海外作品や北九州市出身の劇作家・演出家による演劇作品など幅広い年齢層に向けた鑑賞事業を実施することで鑑賞人口の拡大を図った。
- ・毎年継続実施している市民参加による作品創作などとともに、地域のダンサーの発掘・育成の視点も入れたダンス作品の創作を行い、北九州以外に宮崎、熊本ツアーを実施し、新たな創作・上演の土壌を開拓した。このような活動により、九州圏域での鑑賞の拠点施設としてのプレゼンスを高めると同時に地域全体の創造力を高め、実演芸術の水準向上へ貢献し、国内外への発信による地域のアピールとブランド力の向上に寄与した。
- ・小学生から大学生までを対象としたアウトリーチやワークショップを行う人材育成事業の実施とあわせて、地域の多様な主体・福祉施設やサッカークラブとの連携・協働により、劇場でのダンス作品発表やレパトリーとしての更なる活用を目指したPV撮影を実施した。このような事業の実施においては舞台芸術が持つ力や劇場が持つ地域の拠点施設としての機能を活かす取り組みを丁寧かつ着実に進めていくことで、その力を市民に広く還元し、新しい発想や価値を生み出す環境づくりへと繋げている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

- ・演劇とダンスを中心に幅広い年齢層を対象に作品規模の大小にかかわらず国内外から優れた作品を招聘・上演し、地方においても首都圏と変わらず舞台芸術を享受できる環境を構築し地域住民への鑑賞機会の拡充を図ることが出来た。また、チケット販売では、24歳以下や高校生に鑑賞してもらいやすい価格帯を設けることで若年層の鑑賞人口拡大を図り、将来的な鑑賞人口の裾野の拡大につなげている。(R1年度チケット販売割合：一般80%・24歳以下20%)
- ・小学生や高校生、大学生を対象とした普及・人材育成事業の実施や子どもから高齢者までが参加する市民参加企画、若者の就労支援施設や障害者施設との連携・協働による作品創作・発表を実施することで、地域の多様な市民、それぞれのライフステージごとに寄り添い、舞台芸術との新しい出会いや交流の機会を創出した。
- ・当劇場が行っている事業評価調査結果において、公演内容や劇場に関する総合的満足度の満足層の割合=97%(09~17年度)や市内経済波及効果=約16.5~18億円(13~17年度/平均約16.8億円)と算出されていることから、これまでの様々な活動により劇場が文化拠点として地域に浸透しており、これからもそれら活動の継続を期待されていると考える。

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

- ・市の指定管理料や補助金が年々削減される中、アンケートから来場者の年齢や要望を分析し、ラインアップを構成することで入場者数は90%(令和元年度)と鑑賞人口の増加に繋がった。さらに乳児向けや小学生以下も対象となる演劇やダンスの招聘に取り組み、小学生以下の事業参加の割合を平成30年度、令和元年度と10%以上を維持した。世界で活躍する芸術性の高いカンパニーや社会的背景をテーマに描いた作品など観客層を広げる作品にも取り組み、新たな劇場ファン層を獲得した。(令和元年度は全体の34.4%が初めて～2回目の観客)



山海塾「還か彼方からの__ひびき」
リ・クリエーション
演出・振付・デザイン:天児牛大



松尾スズキプロデュース
東京成人演劇部 vol.1「命、ギガ長ス」
プロデュース・作・演出・出演:松尾スズキ



大人も一緒に子どもたちの
劇場シリーズ2019-海外編-
「カラフルパズル」from リトアニア

- ・地域住民へのインタビューや取材を行い、地域資源に着目した独自の作品を創作。第一線で活躍するアーティストと地域の表現者が共同創作することで次世代の表現者やスタッフの発掘と育成にも努めた。また平成29年度～令和元年度と複数年かけ事業に取り組むことで、アーティストとの信頼関係を深め、質の高い作品を創作。「ギミックス」では九州圏域劇場と連携し、劇場初となるダンス作品の九州ツアー・ワークショップを実施。知的財産の流通を進め、ネットワークの形成を構築することができた。さらに幅広い年齢層がアーティストと本格的に作品創作する場を提供し、地域への芸術文化の浸透に繋がった。



北九州芸術劇場+市民共同創作リーディング
「Re:北九州の記憶」
構成・演出:内藤裕敬(南河内万歳一座)



北九州芸術劇場ダンスクリエーション
「ギミックス」
振付・演出:井手茂太(イデビアンクルー)



北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ
「まつわる紐、ほどけば風」
作・演出:岩崎正裕(劇団太陽族)

- ・令和元年度は、地域にある障害者・若者支援などの福祉現場や商業施設・サッカーチームなどの企業等多様な主体との連携を維持した。これにより、舞台芸術を活かした新たな発想や価値を生み出す環境を作ることができた。新型コロナウイルス感染防止のため、途中で中止となったが、次世代を担う若者世代の表現者が長期的に活動できる場として新しい事業にも取り組み、事業に関わる若者(10代～20代)の割合を平成30年度の30%から令和元年度は41%と増加させ、さらに新たなコミュニティの形成にも繋がった。また研修の場を設け、劇場の持つノウハウを活用して、高校生や社会人などが実践的に知識や技術を取得する場を提供した。



ひとまち+アーツ協働事業
北九州市身体障害者福祉協会アートセンターとの協働事業
レインボードロップス ダンス公演「こんなにも、家族」
振付・構成・演出:セレノグラフィカ



大学演劇ラボ
参加者:22名 ※北九州市に在住、もしくは市内大学などに通う大学生など



地域のアートレパトリー創造事業
北九州芸術劇場×ギラヴァンツ北九州
「ギラダンス」
振付:近藤良平(振付家・ダンサー/コンドルズ主宰)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

・国内外から芸術性の高い作品や乳幼児や子ども・親子向けの作品、多様なダンス作品やコアな演劇ファン向けの作品などを上演した。実施期間については当初の計画通りに遂行することができ、舞台芸術の多様性を観客に提示し、あたらしい価値観との出会いを創出した。費用面については、ダンス作品でなかなか券売が伸びず苦戦するものもあったが、交通費や道具運搬費などにおいて前後公演地との折半交渉や調整により当初予算よりも安価に抑えることができ、大きく乖離することなく進めることが出来た。

・第一線で活躍するアーティストと市民や地域の表現者などとの作品創りにおいても、事前ワークショップから稽古・本番までの実施期間は概ね当初計画に沿って進められた。事業費の支出面では、ダンス作品の創作で当初予定の舞台費が各セクションの調整努力等により大幅に減額できたことや年度末の事業では新型コロナウイルス感染防止の観点から予定していた関西での公演を全日程中止したことにより、当初の予定より大幅な減額となった。また、収入面も新型コロナウイルスの影響で8回の本番が1回となるなど、結果的に収支バランスは少し崩れた形となった。

・普及・人材育成事業として位置づけられる若年層へのアプローチや地域にある様々な主体との連携による事業においては、台風や新型コロナウイルスの影響を受け、実施期間を縮小せざるを得ない状況となったが、講師とともにプログラムを練り直すなど対応を速やかに行うことで、実施内容自体は大きな変更なく進めることが出来た。

当初予定していた参加者数が大幅に減った要因としては、新規で地元企業との協働に向けて動いていたが、結果的に相手方の企業戦略や運営方針等とのすり合わせがうまく行かず実施に至らなかったものや、地元サッカーチームとの協働で進めていた子どもから大人まで多数の市民と一緒に作るダンスPVの撮影が新型コロナウイルス感染防止のため、中止となったことが挙げられる。

事業費の支出面においては、実施内容をさらに検討・調整していく中で、他都市からの招聘ではなく、地元のアーティストや団体関係者などを講師に迎えて実施する内容に変更となったこと等により交通費や宿泊費の面で当初予算より減額となるものがあった。この点については、今後事業の計画時にもう少し実施内容を精査できるよう努めたい。

収入面においては、連携先の団体側が助成金申請を行い採択される事例があり、大きなインパクトとなった。劇場だけでなく地域の様々な領域の団体との連携・協働による実施形態を継続的に行い、互いに信頼関係を築いてきたひとつの結果がそのような動きにつながっていると捉えることができる。

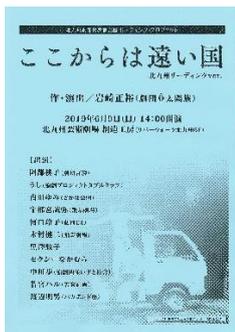
(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、獨創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

【専門的人材の役割および創造活動の変化について】

- ・劇場の事業計画やラインアップ内容の責任者として、開館当初からの職員を育成しプロデューサーとして登用しており、地域の特性や特色等あらゆる事情を考慮したうえで企画や作品創作、公演の招聘を行い、より地域に根差した事業展開を可能にしている。
- ・平成30年度より演出家・岩崎正裕氏を「クリエイションパートナー」として招聘。2年間という長いスパンで地域と劇場に向き合い、『まつわる糸、ほどけば風』を創作した。地元演劇人や市民との交流を経て得たものが作品創りに反映され、また第一線で活躍するアーティストのモノづくりへの視点や発想、ノウハウが、関わったキャストやスタッフを通して地域に還元されている。
- ・地元で活動するアーティストを「ローカルディレクター」として配置しており、地域の演劇人との交流や作品作りへのアドバイスなど、橋渡役を担っている。令和元年度は、前述のクリエイションパートナーの作品づくりにもより深く関わり、本公演に先駆けて短編2作を作・演出して市内カフェにて上演するなど、地域への多角的なアプローチとクリエイションの多様性を提示した。また、全国の演劇関係者との交流や、自らの作品製作にも積極的に取り組むことで、劇場事業の芸術性やアーティスト性の担保にもつながっている。



北九州劇団代表者会議
リーディングプロジェクト
ここからは遠い国
北九州リーディング ver
作・演出：岩崎正裕



北九州芸術劇場
クリエイション・シリーズ
関連企画
「まるまる糸、どけどけ虫」



「まるまる糸」
作・演出：守田慎之介



「どけどけ虫」
作・演出：泊篤志

【事業における創造性について】

- ・日本国内のみならず海外からの作品も積極的に招致し鑑賞機会の充実を図るとともに、拠点劇場として西日本全体を牽引するという役割を果たしている。
- ・「九州発の新たなダンスムーブメントを生み出す」ことを目指して企画したダンスクリエイション『ギミックス』では、井手茂太氏が北九州に滞在して作品を創作し、それを北九州、宮崎、熊本にて上演した。各地の主催者と協働しながらワークショップも実施、上質な作品を九州圏内で循環させることで、さらに広い視点での地域文化の活性化に取り組んだ。
- ・『Re:北九州の記憶』では、引き続き市民センターや市立図書館との連携企画を実施し、戯曲を残すだけでなく、地域の中で活かしていくことで、知的財産の流通を図っている。
- ・学校アウトリーチや福祉分野でのワークショップなどにおいては、第一線で活躍するアーティストのアシスタントに地元の人材を起用し、そのスキルやノウハウを地域に伝えていく取り組みを行っている。
- ・北九州市身体障害者福祉協会アートセンターとの協働事業であるダンスプロジェクト「レインボードロップス」では、2年間に渡り創作したダンス作品『こんなにも、家族』を上演した。福祉分野との協働としても、またバリアフリーの観点からも、参加者や観客の中に新たな気付きや価値を生み出すきっかけをつくることできた。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

- ・劇場初の九州ツアーを実施した『ギミックス』では、各県のメディア取材を受け、当該地域でも類を見ない新聞一面に「九州のダンス文化を発信」として掲載され評価を高めた。また、若年層の観客を視野にSNSでの動画発信を強化し、高い反応を得ることができた。
- ・ひとまち+アーツ協働事業「若者応援芸術プログラム」では、地域の団体と協働し社会福祉に取り組む姿が大きく取り上げられ、文化芸術が社会的課題解決に果たす役割を広く伝播させ公演への来場を促すなど、市民への理解も深めた。
- ・新たな創造事業シリーズである『まつわる紐、ほどけば風』では、“女性の生き方”という現代社会の普遍的課題を、九州と関西という地域性も交えて考察する視点に、メディアから高い関心が寄せられた。
- ・「ひとまち+アーツ協働事業」や『Re:北九州の記憶』といった北九州ならではの取り組みに注目が集まり、外部での講座や研修の講師としての職員の派遣が増えている。さらにそういった講座をきっかけにした、全国各地の自治体や劇場からの視察やヒアリングも多数受け入れている。

平成31年度

外部講師派遣実績

	月	日	派遣先	内容等	派遣者	
1	H31	7	26	北九州市立大学	「地域の文化と歴史」 テーマ：地域の芸術、音楽、演劇	ローカルディレクター泊篤志 プロデューサー龍亜希
2	H31	7	30	(一財) 地域創造	地域創造フェスティバル2019 シンポジウム 「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設 - 少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」	プロデューサー龍亜希
3	H31	11	11	(公社)日本芸能実演家団体協議会	実演芸術連携フォーラム 「地域の若者+実演芸術 地域のなかでのつな	プロデューサー龍亜希
4	R2	1	7	北九州市立大学	まなびと企業研究1 文化を通じた地域貢献等 ホール入門コース	舞台事業課 高橋優
5	R2	2	18~ 21	(一財) 地域創造	公共ホール等企画運営ワークショップ ステア ホール入門コース	プロデューサー龍亜希 舞台事業課チーフ吉松寛子

視察・調査受け入れ実績

	月	日	依頼者	内容等	
1	H31			(公財)前橋市まちづくり公社 昌賢学園まえばしホール	舞台技術について ※日程調整つかずキャンセル 舞台技術課長 樋田浩昭
2	H31	9	26	宮崎県立劇場	チケットセンターの運営について 劇場管理課 中村智子 劇場管理課チーフ木村悠
3	H31	11	21	大阪府枚方市 産業文化部	自主事業について プロデューサー龍亜希 劇場管理課チーフ木村悠
4	R2	2	7	三重県総合文化センター	施設の企画・運営等について 舞台事業課チーフ吉松寛子 劇場管理課チーフ木村悠、課長中村清和
5	R2	2	27	宝山ホール	運営全般について ※新型コロナウイルス感染防止の影響でキャンセル 劇場管理課チーフ木村悠、課長中村清和

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

- ・令和元年度より5年間の指定管理者に指定されたが、設置者である市の経済状況など資金面では潤沢とは言えず、指定管理料も年々減少傾向にある。財団として安定した運営財源を確保するため、更なる財源獲得を目指す部署やブランディングを徹底的に考える部署を令和2年度に新設した。また会員組織をリニューアルし、有料会員と無料会員の差別化を図るなど、会員組織の資金確保や新たな顧客の開拓を引き続き行っている。

<市の指定管理料(予算)の推移>

年度	H29年度	H30年度	R1年度
劇場	922,941	908,571	908,152
前年度比	-	▲14,370	▲419

<市の補助金(予算)の推移>

年度	H29年度	H30年度	R1年度
劇場	94,576	81,116	71,668
前年度比	-	▲13,460	▲9,448

- ・開館当初より市の派遣職員数は一定数担保されているが、事業担当職員を育てたプロデューサーの登用や、管理職級への昇格など地元出身の人材を中心とした組織マネジメントを行っている。新規採用者は年々減少傾向にあるが、平均勤続年数は安定している。また今年度より採用試験にローカルディレクターのプログラムを採用し、財団独自の試験内容を開発した。採用者の適性を見極め、それぞれの部署への配置に活かすことで新規採用者の定着率の上昇を目指す。(R1年度：平均勤続年数7.9年)
- ・継続・安定的な人材確保のため、高い専門能力を身に着けた職員を専門嘱託とし、無期雇用とするキャリアアップ制度を行っている。(R1年度：無期雇用率22%)
- ・劇場職員に必要な知識や能力を養う研修は、OJTを中心に現場でしか得られない経験の蓄積を重視し、国内トップクラスのアーティストによるインリーチ、学校アウトリーチの現場視察などを実施している。また、平成30年度に実施した職員研修会で生まれた新たな企画の種を元にプロジェクト会議が立ち上がり、プレイガイド機能やライブラリー機能を統合リニューアルした『Q-station』の新設に繋がった。これからの組織運営や発信を中心とした企画立案を行う「プラン会議」では、在籍年数や年代を越えて1年間を掛けて意見交換や互いの考えを共有し合うことで多様な企画が生まれた。今後企画の実施をどう具現化するかの検討を続けるとともに、劇場全体での研修の機会をつくっていききたい。
- ・若手作家がメインで物語を紡ぐ「Re：北九州の記憶」や、大学生中心の劇団を作って作品創作を行う「大学演劇ラボ」、また「まつわる紐、ほどけば風」では、若いキャストやスタッフを積極的に登用した。次世代を意識した事業展開や、同世代間の交流など新たなコミュニティの形成にも繋がっている。また、九州を代表するアーティストを、ローカルディレクターとして雇用することで、今後も地域のアーティストとの繋がりを密にするとともに、若き才能の発掘や育成にも力を入れていく。
- ・福祉分野では、障害あるなしに関わらずダンスを楽しむダンスプロジェクト「レインボードロップス」を実施。身体障害者福祉協会アートセンターとタッグを組み、2回目の本公演にチャレンジした。アシスタントには地元ダンサーを起用し、協働先と独自の企画を実施するなど自発的な活動にも繋がっている。また、就労支援の必要な若者たちを対象とした「若者応援芸術プログラム」では、演劇の創作活動を中心としたプログラムを行い、独創性豊かな作品が生まれた。実施に当たっては、共同主催である社会福祉事業団が単独予算を獲得するなど、双方向で運営資金を調達している。芸術文化以外の領域と協働し、互いの価値観や多様性を尊重・共有し認めあうことで、地域や社会が抱える課題解決に向けた取り組みを引き続き行っていく。